

学級の情報発信の場としての婦人学級新聞

婦人学級の運営組織には5つの小委員会(例えば、第1年次の場合は生活・評価・記録・広報・レクリエーション)が設けられました。広報委員会の仕事のひとつが『婦人学級新聞』の発行でした。

地区での学習の進行状態報告や、他県・他の地域との交流の様子、学級生の作品、感想、歌った歌の歌詞等、内容は広範にわたり、謄写版刷り学習と併行して発刊されました。第1号には新たに始まった婦人学級について、次のような10項目の特徴が描かれています。

面白いこんどの婦人学級(『婦人学級新聞』第1号 昭和30年1月26日)

こんどの婦人学級のねらいは生活改善

こんどの婦人学級の目的は女の人が自分たちの生活を高め生活を見つめる態度を養う

こんどの婦人学級の時間割は生活に即した問題が出ている

こんどの婦人学級の先生は自分

こんどの婦人学級は皆して考える

こんどの婦人学級は皆が発言する

こんどの婦人学級は書くことを練習する

こんどの婦人学級の役員は皆が役員

こんどの婦人学級はやればやる程面白くなる

こんどの婦人学級は全町運動である



『婦人学級新聞』第2号(昭和30年1月28日)